

ぼん だい

令和7年度(2025)

所報 No.60

NATIONAL
BANDAI YOUTH
FRIENDSHIP CENTER



独立行政法人 国立青少年教育振興機構

国立磐梯青少年交流の家

申込み・お問合せ

〒969-3103 福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1

TEL:0242-62-2530 FAX:0242-62-2532



HP



Facebook



Instagram

所長あいさつ



令和7年度 所報「ばんだい」No. 60号の発刊にあたり、御挨拶申し上げます。

令和7年度に実施いたしました教育事業等は、おかげをもちまして成功裏に終わることができました。これも関係諸機関の御協力と講師の先生方をはじめ、ボランティアの皆さんや多くの方々の御支援のおかげと、心から感謝申し上げます。また、それぞれの事業に御参加いただきました皆さんにも重ねてお礼を申し上げます。

近年の急激な社会の変化の中、当機構の第5期中期目標・計画推進に向け、職員一同、青少年教育施設の果たす役割の重さをあらためて実感し、今後とも鋭意取り組んでまいります。

ここに、教育事業等の報告をまとめた所報「ばんだい」No. 60号をお届けします。掲載したもののいくつかでも御活用いただけましたら幸いです。今後とも一層の御指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年3月吉日

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立磐梯青少年交流の家 所長 佐藤 素子

施設紹介

国立磐梯青少年交流の家について

“山と湖の磐梯”

国立磐梯青年の家は、団体宿泊訓練を通じて健全な青年の育成を図るために、国立青年の家の3番目の施設として、1966年（昭和41年）5月に開所した。

2006年（平成18年）4月からは独立行政法人国立青少年教育振興機構国立磐梯青少年交流の家として新たなスタートをきり、2026年5月に60周年を迎える。

当施設は磐梯朝日国立公園の磐梯山麓南面に位置しており、猪苗代湖や裏磐梯の多くの湖沼群など、山と湖と森の豊かな自然に囲まれた青少年教育の拠点として、年間を通じて福島県内はもとより、関東・東北地方を中心に多くの青少年や青少年教育指導者等に、自然体験活動やスポーツ・芸術文化活動などの研修で御利用いただいている。





～ 所報 60 号目次 ～



◇所長あいさつ	
◇施設紹介	
I 令和7年度 国立磐梯青少年交流の家 施設運営・グランドデザイン・教育事業等方針	P. 1
II 令和7年度のあらまし	P. 5
III 令和7年度 教育事業等	
1 令和7年度 国立磐梯青少年交流の家の教育事業実施一覧	P. 8
2 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業	
(1) 課題を抱える青少年の支援事業（生活自立支援キャンプ） 「子ども食堂スノーキャンプ2025 in 磐梯山」	P. 9
(2) 全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿 「地域探究プログラム」（学校・団体参加型）	P. 10
(3) 地域ぐるみ事業「スマイルばんせい」	P. 11
3 青少年教育指導者等の養成事業	
(1) ボランティア養成・研修事業「ばんボラセミナー」	P. 12
(2) ボランティア研修・自主企画事業「ボランティア自主企画」	P. 13
4 第11期福島こども未来塾 第1～4回	P. 14
5 福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会事業	
(1) スマイルばんせい	P. 18
(2) 地域のイベントや他施設での「体験の風をおこそう」運動普及啓発活動	
(3) 子どもゆめ基金説明会	
(4) その他	
IV 令和7年度 研修支援等	P. 19
V 施設概要	
1 職員組織	P. 20
2 国立磐梯青少年交流の家のあゆみ	P. 21
◇ご協賛・ご協力いただいた皆さま	P. 24

I 施設運営・ランドデザイン・教育事業等方針

国立磐梯青少年交流の家／小野所長引継をベースに実行→評価→次の一步に)

国立磐梯青少年交流の家ランドデザイン【長期的な計画、展望】 ～2025年

ビジョン【2025年になってほしい姿】

目標 → 重点

青少年及び青少年教育指導者に対する体系的な研修の実施

(教育テーマ) 健康的な生活習慣のきっかけづくり～(食育)(運動習慣づくり)～

(キャッチコピー) 山と湖の磐梯

赤べこのように(傾聴 と 粘り強さ そして「非思量」)

ゴール【ビジョン到達を証明する指標】

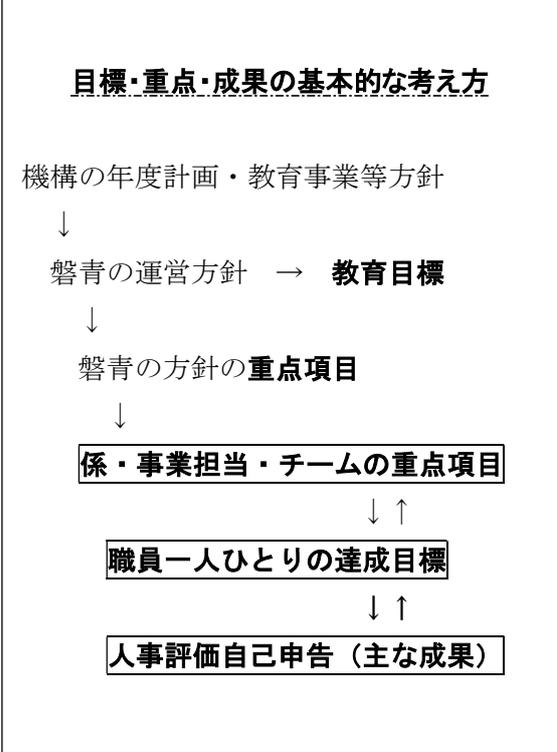
主要な成果



指標1
利用者のニーズに応じた活動プログラムの確立

指標2
法人ボランティアの組織化
法人ボランティア自主事業が
円滑に実施できる体制を整える。

指標3
福島こども未来塾実行委員会を設立
福島こども未来塾の実施体制を整える。



令和7年度国立磐梯青少年交流の家の施設運営について

令和7年度国立磐梯青少年交流の家の施設運営について

国立磐梯青少年交流の家/小野所長一佐兼
令7.4.23.

1 基本的な考え方

- 独立行政法人国立青少年教育振興機構法**
 - ↓ (機構の目的、中期目標管理法人、業務の範囲等など)
- 独立行政法人国立青少年教育振興機構に関する省令**
 - ↓ (業務方法書、中期計画、年度計画、業務実績報告、財務諸表など)
- 独立行政法人国立青少年教育振興機構業務方法書**
 - ↓ (業務の方法についての基本事項を定めたもの)
- 中期目標【第4期 令和3年度～令和7年度(2021年度～2025年度)】**
 - ↓ (独立行政法人国立青少年教育振興機構が達成すべき業務運営に関する目標 文部科学大臣指示)
- 中期計画** (中期目標を達成するための計画 文部科学大臣認可)

ミッション: 青少年教育の振興・健全な青少年の育成
ビジョン: 青少年一人ひとりが 幸福を追求できる 持続可能な社会を 実現する
バリュー: Curiosity, Change, Challenge, Care, Communication, Collaboration, Creativity
好奇心 変化 挑戦 多様性・思いやり 対話・共感 協働 体験の場の創造

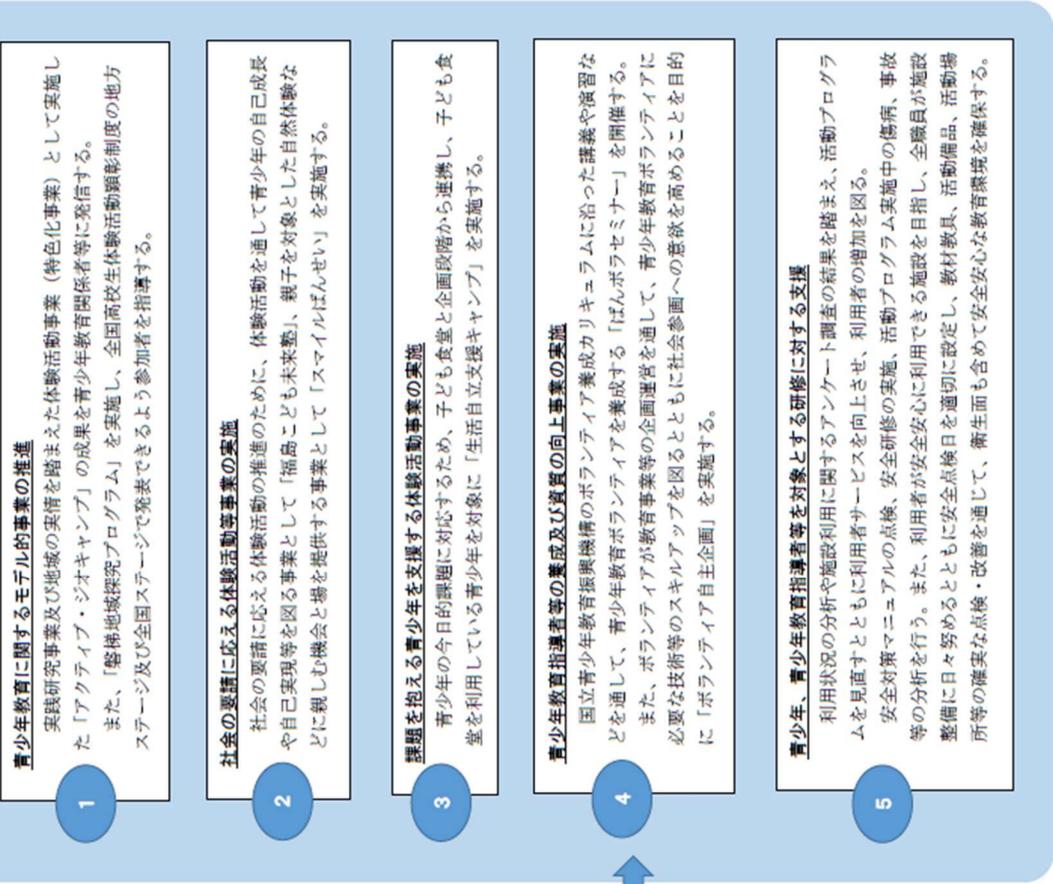


国立磐梯青少年交流の家グランドデザイン ～2025
 ↓
令和7年度年度計画 (中期計画を達成するための業務運営に関する計画)
 ↓
経営計画、人事に関する基本方針、予算編成方針、教育事業等方針

- 2 地域に根差し、地域に愛される施設で、ミッションを遂行できるように…
 - (1) 日常的に 地元自治体、関係機関との双方向の情報共有、そして 職員相互の合意形成 ～ 赤べこのように (傾聴 と 粘り強さ) として「非思量」～
 - (2) 会館体として

国立磐梯青少年交流の家施設運営協議会 年11回
 (中期計画)地域における体験活動の充実を図るとともに、
 地域と施設が一体となった管理運営を目指すために、
 (年度計画)施設の管理運営や事業の企画・実施へ
 多様な主体が参画する形の管理運営を目指すため、
 地域の多様な人材発掘に努めるとともに、「運営協議会」方式を引き続き実施する。
福島「体験の風をおこそう」実行委員会 年2回

職員会議 定例・随時 **朝礼(毎朝) SNS(LINE TEAMS 等)**



令和7年度 国立磐梯青少年交流の家教育事業等方針

1. 基本的な考え方

独立行政法人国立青少年教育振興機構法

↓ (機構の目的、中期目標管理法人、業務の範囲等など)

独立行政法人国立青少年教育振興機構に関する省令

↓ (業務方法書、中期計画、年度計画、業務実績報告、財務諸表など)

独立行政法人国立青少年教育振興機構業務方法書

↓ (業務の方法についての基本事項を定めたもの)

中期目標【第4期 令和3年度～令和7年度(2021年度～2025年度)】

↓ (独立行政法人国立青少年教育振興機構が達成すべき業務運営に関する目標 文部科学大臣指示)

中期計画

(中期目標を達成するための計画 文部科学大臣認可)

ミッション: **青少年教育の振興 ・ 健全な青少年の育成**
ビジョン: **青少年一人ひとりが 幸福を追求できる 持続可能な社会を 実現する**
バリュー:
Curiosity, Change, Challenge, Care, Communication, Collaboration, creativity
好奇心 変化 挑戦 多様性・思いやり 対話・共感 協働 体験の場の創造

国立磐梯青少年交流の家グランドデザイン ~2025

令和7年度年度計画

(中期計画を達成するための業務運営に関する計画)

経営計画、人事に関する基本方針、予算編成方針、教育事業等方針

2 地域に根差し、地域に愛される施設で、ミッションを遂行できるように…

(1) 日常的に

地元自治体、関係機関との双方向の情報共有、そして 職員相互の合意形成
～ 赤べこのように(傾聴 と 粘り強さ)～

(2) 会議体として

国立磐梯青少年交流の家施設運営協議会 年1回

(中期計画)地域における体験活動の充実を図るとともに、

地域と施設が一体となった管理運営を目指すために、

(年度計画)施設の管理運営や事業の企画・実施へ

多様な主体が参画する形の管理運営を目指すため、

地域の多様な人材発掘に努めるとともに、「運営協議会」方式を引き続き実施する。

福島「体験の風をおこそう」実行委員会 年2回

職員会議 定例・随時

朝礼(毎朝) SNS(LINE TEAMS 等)

令和7年度 国立磐梯青少年交流の家教育事業等方針

令和7年4月23日
国立磐梯青少年交流の家

1. 基本的な考え方

国立青少年教育振興機構の令和7年度教育事業等方針等を踏まえ、国立磐梯青少年交流の家教育事業等方針を作成し、円滑に業務を遂行する。

2. 青少年教育に関するモデル的事業の推進

実践研究事業及び地域の実情を踏まえた体験活動事業（特色化事業）として実施した「アクティブ・ジオキャンプ」の成果を青少年教育関係者等に発信する。

また、「磐梯地域探究プログラム」を実施し、全国高校生体験活動顕彰制度の地方ステージ及び全国ステージで発表できるよう参加者を指導する。

3. 社会の要請に応える体験活動等事業の実施

社会の要請に応える体験活動の推進のために、体験活動を通して青少年の自己成長や自己実現等を図る事業として「福島こども未来塾」、親子を対象とした自然体験などに親しむ機会と場を提供する事業として「スマイルばんせい」を実施する。

4. 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業の実施

青少年の今日的課題に対応するため、子ども食堂と企画段階から連携し、子ども食堂を利用している青少年を対象に「生活自立支援キャンプ」を実施する。

5. 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業の実施

国立青少年教育振興機構のボランティア養成カリキュラムに沿った講義や演習などを通して、青少年教育ボランティアを養成する「ばんボラセミナー」を開催する。また、ボランティアが教育事業等の企画運営を通して、青少年教育ボランティアに必要な技術等のスキルアップを図るとともに社会参画への意欲を高めることを目的に「ボランティア自主企画」を実施する。

6. 青少年、青少年教育指導者等を対象とする研修に対する支援

利用状況の分析や施設利用に関するアンケート調査の結果を踏まえ、活動プログラムを見直すとともに利用者サービスを向上させ、利用者の増加を図る。

安全対策マニュアルの点検、安全研修の実施、活動プログラム実施中の傷病、事故等の分析を行う。また、利用者が安全安心に利用できる施設を目指し、全職員が施設整備に日々努めるとともに安全点検日を適切に設定し、教材教具、活動備品、活動場所等の確実な点検・改善を通じて、衛生面も含めて安全安心な教育環境を確保する。

II 令和7年度のあらまし

1 教育事業（詳細はP. 8～18参照）

青少年教育のナショナルセンターとして、青少年の各年齢期に必要とされる体験活動（自然体験、社会体験、生活体験等）の適切な場と機会提供の場とするために教育事業を実施してきた。

「課題を抱える青少年の支援事業」として『生活自立支援キャンプ』、「地域ぐるみ事業」として『スマイルばんせい』、「青少年教育に関するモデル的事业」として、学校・団体参加型『地域探究プログラム』、「ボランティア養成・研修事業」として、『ばんボラセミナー』、『ボランティア自主企画（「Step Up Now!!～仲間との絆で踏み出す一歩～」）』、東日本大震災からの復興支援事業として、『第11期福島こども未来塾』①～④を実施した。

「実践研究事業・特色化事業」として昨年度まで実施してきた『アクティブ・ジオキャンプ』は、今年度から実践研究の成果と登山プログラムの普及推進の活動プログラムとして取組んでいくことになった。それ以外については予定どおり各事業を実施することができ、多くの青少年に体験の機会を提供することができた。



第11期福島こども未来塾

2 研修支援等（詳細はP. 19参照）

令和7年度は宿泊利用者数44,662人、日帰り利用者数4,688人となった。これは年度当初に設定した目標値に対して、宿泊利用者数が93%、日帰り利用者数が260%の達成率となる。

今年度は地域連携プログラムを新設した。本プログラムには、福島県立博物館職員と連携している震災講話プログラムに加え、アクアマリンいなわしろカワセミ水族館と連携したプログラム「カワセミトーク」を新しく加えた。このカワセミトークは、水族館職員から福島県内に生息する水生生物についての理解や水族館見学の楽しみ方についての講話を受けるプログラムである。実際に講話を受けた団体からは、初めての発見に驚いたり、水族館見学が楽しみになったりしたと好評を得た。また、宿泊利用者のみ活動が可能だった野外炊飯プログラムを日帰り利用団体向けプログラムとして拡大し、さらに必要物品の事前準備も施設で行う「日帰り野外炊飯らくらくパック」を新設した。本プログラムの広報は県内校長会や各市町村教育委員会に行った。

利用者獲得に向けた広報活動として、新潟県高等学校PTA連合会、新潟県私立中学高等学校協会、猪苗代町商工会へ向けて、訪問型広報を実施した。

3 地域との連携

(1) 運営協議会の開催

第1回運営協議会 (R8.1.29)

令和7年度 国立磐梯青少年交流の家運営協議会名簿 (敬称略)

No.	氏名	所属職名
1	増子 惠二 (委員長)	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会 会長
2	遠藤 裕一	福島県教育庁社会教育課 課長
3	中野 充	学校法人新潟青陵大学 福祉心理子ども学部臨床心理学科 准教授
4	角田 守良	福島民報社 編集局長
5	門脇 広子	福島県立猪苗代高等学校 校長
6	小川 信二	株式会社シグマ 経営企画本部 参与

令和7年度は「運営協議会」を1月に実施した。(対面とオンライン) 国立磐梯青少年交流の家グランドデザインや令和7年度の教育事業等方針について説明し、令和7年度の施設利用状況、教育事業、施設整備状況広報実績等について報告した。

その後、令和7年度施設利用申込状況、教育事業等計画、施設整備計画、広報計画について協議した。

委員一人一人のそれぞれの立場や新たな視点から意見を伺うことにより、当交流の家での取り組みや計画を見直す機会となり、有意義な時間を過ごすことができた。

今後も第4期中期目標・中期計画を踏まえた取り組みに対して、いただいた貴重なご意見を反映させながら次年度の運営に生かしていく。

(2) 福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会

第1回実行委員会 (書面審議)

第2回実行委員会 (R8.2.20)

令和7年度 福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会名簿 (敬称略)

No.	氏名	所属職名
1	佐藤 隆宏	猪苗代町教育委員会 教育長
2	高橋 敦司	福島民友新聞社 若松支社長
3	小川 真二	株式会社シグマ 経営企画本部 参与
4	佐藤 素子 (実行委員長)	国立磐梯青少年交流の家 所長

地域の資源を活かした体験活動の充実の重要性について普及啓発することで、地域の教育を高めるとともに、福島県内で暮らす子どもたちに様々な体験の場と機会を提供して、健全な青少年の成長を促す礎を築くことを目的として、県内や会津地域の各種団体と連携し、特色を生かした体験活動の提供及び普及啓発活動を行った。

- ① 「スマイルばんせい」の開催 (詳細P. 11参照)
- ② 「学びいなまつり」他イベントブース出店
- ② 「猪苗代湖の水質保全活動推進」のため (紺碧の猪苗代湖復活プロジェクト会議)との連携 (詳細P. 18参照)

(3) 各高等学校・大学等との連携（ボランティア活動の充実）

各種教育事業を実施するために、各高等学校（会津学鳳高等学校・須賀川桐陽高等学校・尚志高等学校・磐城高等学校）及び各大学（福島大学・新潟清陵大学・慶応義塾大学・郡山女子大学・東邦大学）の学生に参画をしていただいた。

(4) 青少年施設連携

① 東北地区青少年教育施設運営研究協議会

東北地区青少年教育施設の関係者が一堂に会し、各施設における日頃の実践例をもとに研究協議を行い、地区相互の連携を深めることを趣旨としている。今年度は、福島県会津自然の家（福島県会津坂下町）が事務局を務め、会津若松市生涯学習総合センター（会津稽古堂）を会場とし、各施設の運営や施設設備について情報を交換しながら連携を深めた。

② 東北連携会議

国立青少年教育施設東北地区4施設（岩手山・花山・磐梯・那須甲子）の連携を強化し、各施設における業務の活性化を趣旨としている。今年度は国立花山青少年自然の家が事務局を務め、国立磐梯青少年交流の家を会場として開催した。1日目は、磐梯の施設見学や活動プログラム体験「カワセミトーク」（講師：公益財団法人ふくしま海洋科学館 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館 館長 岩田 雅光 氏）などを実施。2日目は、「事業系」「総務・管理系」に分かれ、分科会で、各施設の運営や設備状況について情報交換し、連携を深めた。

③ 福島県自然の家会議

福島県いわき海浜自然の家を中心に、会津自然の家、郡山自然の家、国立磐梯青少年交流の家、国立那須甲子青少年自然の家と連携会議を行ってきた。各施設の利用状況や事業報告、課題や対策についての協議や情報交換が主な活動であった。

4 法人ボランティア表彰

当交流の家を中心にボランティア活動を積極的に行った3名が令和7年度法人ボランティア表彰を受け、表彰状を授与した。

【令和7年度法人ボランティア表彰者】

- | | | | |
|--------------|----|----|----|
| ・福島大学 | 4年 | 加藤 | 実果 |
| ・郡山女子大学短期大学部 | 3年 | 佐原 | 凜香 |
| ・会津学鳳高等学校 | 3年 | 相原 | 匠翔 |

令和7年度 国立磐梯青少年交流の家教育事業等報告

No.	事業名	趣旨	内容	期間	対象	参加人数
1	アクティブ・ジオキャンプ 【実践研究事業・特色化事業】	自然体験活動や宿泊体験を通して、青少年の調理・食生活に対する自信、食に対する感謝の気持ちや自己肯定感を高めるとともに、日常における運動習慣のきっかけづくりになることを目的として普及・啓発活動を実施する。	・実践研究の成果と登山プログラムの普及	通年	—	—
2	生活自立支援キャンプ 【生活自立支援事業】	体験活動を通して、子ども食堂を利用している青少年の基本的な生活習慣や自立する力を育むことを目的に実施する。	・雪の活動 ・レクリエーション ・ニュースポーツ	1/10(土)～12(月)	松戸市の子ども食堂 (小学生～中学生)	33名
3	磐梯地域探究プログラム 【地域探究プログラム事業】	体験活動を通して、高校生の物事を探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を育成することを目的に実施する。	・講義「震災講話」 ・ワークショップ「HUG指導」 ・フィールドワーク「磐梯山登山」	・4月18日(金) 【ガイダンス】 ・5月2日(金)【五色沼】 ・6/5(木)～6(金) 【オリエンテーション合宿】 ・7月11日(金)【発表会】 ・9/19(金) 【磐梯山登山】 ・12月～1月 【東北ステージ】 ・1月24日(土)【発表会】 ・1～2月 ・2月【全国ステージ】	福島県立猪苗代高等学校生徒	53名
4	ばんボラセミナー 【ボランティア養成・研修事業】	国立青少年教育機構のボランティア養成カリキュラムに沿った講義や演習などを通して、青少年教育ボランティアを養成することを目的に実施する。	・講義 ・演習 ・実習	5/24(土)～25(日)	ボランティア活動に興味のある大学生等	42名
5	ボランティア自主企画 【ボランティア養成・研修事業】	ボランティアが教育事業等の企画運営を通して、青少年教育ボランティアに必要な技術等のスキルアップを図るとともに社会参画への意欲を高めることを目的に実施する。	・ボランティアが企画する体験活動等	10/26(日)	国立磐梯青少年交流の家で活動するボランティア	13名
6	第11期 福島子ども未来塾	体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知らせ、福島県の未来を考え行動できる青少年を育成することを目的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <第1回> ・東日本大震災や福島県の自然、文化、歴史を知る活動 ・福島県の食を考える活動 <第2回> ・仲間を思いやる活動 <第3回> ・新しいことにチャレンジする活動 <第4回> ・留学体験 ・将来を考える活動 	<ul style="list-style-type: none"> <第1回> 8/5(火)～7(木) <第2回> 9/6(土)～7(日) <第3回> 9/27(土)～28(日) <第4回> 10/11(土)～13(月) 	小学5年生～中学2年生	第1回 38名 第2回 38名 第3回 36名 第4回 39名
7	スマイルばんせい 【地域ぐるみ事業】	家族で体験活動を楽しむことを通して、親子でのコミュニケーションを促し、家庭教育の充実を図ることを目的に実施する。	・創作活動 ・自然体験活動 ・文化体験	10/19(日)	小学生以下を含む家族	415名
8	子どもゆめ基金説明会 【地域ぐるみ事業】	民間団体が実施する特色ある取組や、体験活動等の裾野を広げるような活動を中心に、様々な体験活動や読書活動等への助成金による支援を行い、未来を担う夢を持った子供の健全な育成の一層の推進を図ることを目的に実施する。	・助成申請の説明 ・質疑応答 ・相談	第1回10/25(土) 【対面】 第2回1/24(土) 【オンライン】	申請を予定している青少年関係団体等	第1回 4団体 第2回 3団体

1 趣旨

体験活動を通して、子ども食堂を利用している青少年の基本的な生活習慣や自立する力を育むことを目的に実施する。

2 期日

令和8年1月10日（土）～12日（月）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

33名（小学生15名、中学生18名）

5 主な活動内容

(1) スノーシューハイキング・雪のテーブル作り

研修指導員のもと、町営牧場を目的地にスノーシューでハイキングをした。参加者からは「疲れたけれど、スノーシューハイキングや雪のテーブル作りは普段できない体験だった。」「動物の足跡が見られて楽しかった。」等の声が聞かれた。大自然の大きさや、目的地の町営牧場まで歩ききった達成感、自分達で協力して雪のテーブルを作ることによる満足感を味わうことができた。



(2) 雪像作り・マシュマロ焼き

参加者は道具を用いて、役割分担をしながら班ごとに思い思いの雪像を作ることができた。夜は自分たちで作った雪像を見ながら、マシュマロ焼きを実施した。参加者からは「協力して雪像を作ることができて楽しかった。」「焼いたマシュマロを初めて食べて美味しかった。」等の声が聞かれた。



(3) 自主性を大切に活動（雪遊び、体育館でのスポーツ等）

前日のミーティングで場所と道具、可能な活動の中から、各自がどのような活動をして過ごしたいか話し合い、参加者の自主性を大切に活動を行った。参加者からは「友だちと話しながら雪の活動ができて楽しかった。」「室内でいろいろなスポーツができて楽しかった。」等の感想が聞かれた。



6 事業の成果と課題

(1) 成果

事業前と事業後にアンケートをとり、参加者の変容を調査した。「基本的な生活習慣」や「自立する力」の項目において、事業後の平均値が上昇していることから、目的に沿った活動を提供できた。「牧場にたくさんの雪があつて楽しかった。」「雪のテーブル作りは大変だったけど、協力して作ることができてよかった。」「初めて会った人とも仲良くなれてとても嬉しかった。」といった感想が見られた。共に活動する仲間を受け入れて尊重しようとする気持ちや、年長者が年少者を気遣うあたたかさ、自分自身で活動を選択して最後までやり遂げる心地よさを味わうことができた。

(2) 課題

事前アンケートの「活動がどれくらい楽しみか」と事後アンケートの「活動にどれくらい満足したか」の項目の最上位値を見てみると、事前の「楽しみ」よりも事後の「満足」の方が低くなった。これは悪天候によって参加者が期待していた活動を実現できなかったことや主体的に活動する時間が制限されてしまったことが要因だと考えられる。参加者の期待に応えられるような代替案の活動を、連携機関と担当者間で話し合ったうえで、参加者が見通しをもつ時間を保証することにより、参加者が更に満足できる活動を提供できたと考える。

令和7年度 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」
国立磐梯青少年交流の家 教育事業 報告書

1 趣旨

体験活動を通して、高校生の物事を探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を育成することを目的に実施する。

2 期日

令和7年4月18日（金）～令和8年1月24日（土）（計8日）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家
福島県立猪苗代高等学校
磐梯山
五色沼湖沼群



4 参加者

51名（高校生51名）

5 主な活動内容

(1)五色沼湖沼群散策（フィールドワーク）

五色沼湖沼群の成り立ちや植生などについて学びながら散策した。生徒からは「噴火によってこんなにきれいな景色ができたなんて信じられない。」「沼ごとに色が違うのが磐梯山と関係しているとは思わなかった。」などの声が聞かれ、過去の噴火が地域に与えた影響について関心が高まった。

(2)震災講話・さすけなぶるワークショップ・HUG実践（講義・演習）

福島県立博物館主任学芸員 筑波匡介氏を講師に招き、災害現場や避難所で実際に起きている課題や現状について学んだ。「日頃からの備えが大切であることが分かった。」「いざというときに自分に何ができるか考えることができた。」などの声が聞かれ、災害を自分事ととらえて考えることができた。

次に、福島県防災士会理事 鈴木里美氏を講師に招き、さすけなぶるワークショップに取り組んだ。「さりげなく、すばやく、けむたがらず、ないものねだりをやめて、ふるさとのような」の5つのキーワードに基づきながら、東日本大震災の際にビッグパレット福島で起こったトラブルに対する柔軟な対応について考えた。その後、ワークショップで学んだことを生かしてHUG（避難所運営ゲーム）に取り組んだ。多様な背景をもつそれぞれの避難者が安心して生活できるようにグループ内で意見を交換しながら避難所運営について考えを深めた。生徒からは「人を救うのは人という言葉が心に残った。」などの感想が寄せられ、発災時における人と人との繋がり的重要性について理解が深まった。

(3)磐梯山登山

磐梯山の過去の噴火の様子や生息している動植物などについて学びながら登山を行った。「自然がいっぱいで噴火があったなんて信じられない。」「たくさんの人にこの景色を見てほしい。」などの声が聞かれ、自然の雄大さについて実体験を通して学ぶことができた。

6 事業の成果と課題

(1)成果

昨年に引き続き、全学年でのオリエンテーション合宿を継続したことで、上級生がリーダーシップを発揮し、下級生は自身の役割を果たそうと主体的に活動する態度が醸成された。

また、登山では、生徒たちの体力に応じたコース設定をし、余裕をもって活動できたことで、周りの景色に関心をもったり、研修指導員の話に耳を傾けたりと、それぞれの関心に応じた活動をすることができた。

(2)課題

オリエンテーション合宿の際に発災時を想定してアイラップ調理を行ったが、水道を使ったために水の節約に気付かない班が見られた。使える水の量を限定するなど、活動にリアリティをもたせることで、備蓄の重要性や災害時の生活の工夫について学びを深めることができたと考える。

令和7年度 国立磐梯青少年交流の家教育事業 スマイルばんせい 報告書

1 趣旨

家族で体験活動を楽しむことを通して親子でのコミュニケーション促し、家庭教育の充実を図ることを目的に実施する。

2 期日

令和7年10月19日（日）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

家族 415名（大人 207名、小学生 161名、未就学児 47名）

5 活動内容

福島県内の小学生を含む家族を対象に、当施設の体験ブースと地域の協力団体ブースの計15箇所のブースを設置して開催した。当施設では、たき火体験、ばんせい探偵団、赤べこ絵付け体験、館内オリエンテーリングなどの体験ブースを設置した。地域協力団体として、アクアマリンいなわしろカワセミ水族館や磐梯山ジオパーク協議会などのワークショップや警察車両、消防車両の展示ブース及び昨年引き続き書道パフォーマンス体験のブースを設置した。また、食堂での昼食には磐梯山ジオパーク協議会発案の「磐梯山ジオパークカレー」を提供した。

6 成果と課題

(1) 成果

今年度は、地域協力団体を加えての事業としたことで、参加者が昨年度比およそ3倍の415名となった。全体満足度は「満足」76%、「やや満足」24%であり、肯定的評価が100%となった。全体の満足度に関して、参加者からは、「施設全体が広く、体験したいブースが様々なところにあるため、自然と体を動かすことができた。」「普段できない体験ができた。」「子供が友達と協力し、縦横無尽に施設内を探検していて、楽しそうに取り組んでいた。」「様々な体験活動を通して、家族の絆がより深まった。」という評価を得られた。このことから、親子のコミュニケーションを促す契機となったことが伺える。

また、協力団体のブースに関しても、参加者からの「楽しかった。」「学びがあった。」という感想や、地域協力団体の代表者から「貴重な機会となった。」「協力してよかった。」という意見から地域とつながった体験活動を展開することで、参加者にとっても、地域協力団体にとっても、より満足のいく教育事業となったことが伺える。



(2) 課題

アンケートからは「受付の時間が長かった。」「受付を効率的にしてほしい。」といった受付方法に関する記述が多くあった。今年度は4名体制で受付を行ったが、参加者が400名を超えたことにより、待ち時間が非常に長くなってしまった。現金とPayPayの2通りの支払い方法に対する整列方法が明確になっていなかったことが要因として考えられる。次年度は、受付人数を増やす対応、整列方法の看板増設や事前支払制の導入などを検討することで、待ち時間の緩和につなげる。

1 趣旨

国立青少年教育機構のボランティア養成カリキュラムに沿った講義や演習などを通して、青少年教育ボランティアを養成することを目的に実施する。

2 期日

令和7年5月24日（土）～25日（日）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

42名（高校生5名、短期大学生7名、大学生30名）

5 主な活動内容

(1)青少年教育の理解（講義）

常磐大学人間科学部教育学科准教授 松橋義樹氏を講師に招き、青少年教育の対象や体験活動の効果、意義についての講義を行った。参加者からは「青少年教育の対象に自分自身も含まれていることを学んだ」、「体験活動の必要性を理解することができた」などの感想が寄せられ、ボランティア活動と青少年教育の関係性について理解が深まった。



(2)ボランティア活動の技術（演習）

ボランティア活動を行う際の安全管理について、野外炊飯を事例に演習を行った。道具の扱い方や調理を行う際の注意点、安全に活動するための留意点について学び、野外炊飯棟でカレー作りを行った。「自分の役割に責任をもって安全に活動できた」「安全に活動するためのポイントを知ることができた」などの感想が寄せられ、安全に活動するための技術を高めることができた。



(3)青少年教育施設におけるボランティア活動（講義）

磐梯青少年交流の家のボランティア活動の内容について、先輩ボランティアがこれまでの経験をもとに紹介をしたり、説明をしたりした。参加者からは「先輩ボランティアの話聞いて磐青での活動について具体的なイメージをもつことができた」などの感想が寄せられ、実際の活動への意欲が高まった。



6 成果と課題

(1)成果

先輩ボランティアから、ボランティア活動についての体験談や活動を通して学んだことを聞くことで、参加者はボランティア活動についての具体的なイメージをもち、今後のボランティア活動への意欲を高めることができた。また、ウェブアンケートを活用し、参加者の思いや意見を即時に反映しながら進めたことで、講義に対する関心を高めたり、グループ外の参加者同士の意見を共有したりすることができた。

(2)課題

当日の時間設定に余裕がなかったことから、今後は参加者同士で協議したり、演習の際に試行錯誤を重ねたりする時間を十分に確保したスケジュールを計画する必要がある。

令和7年度 国立磐梯青少年交流の家教育事業 高校・大学生の体験活動支援の推進事業
「Step Up Now!!～仲間との絆で踏み出す一歩～」報告書

1 趣旨

ボランティアが教育事業等の企画運営を通して、青少年教育ボランティアに必要な技術等のスキルアップを図るとともに社会参画への意欲を高めることを目的に実施する。

2 期日

(1) 令和7年5月25日(日) (2)令和7年10月4日(土) (3)令和7年10月26日(日)

3 会場

国立磐梯青少年交流の家(福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原7136-1)

4 参加者

13名(高校生5名、短期大学生1名、大学生7名)

5 主な活動内容

(1)ボランティア自主企画 企画立案会議(自主企画担当ボランティア:大学生2名、短期大学生1名)

学生が教育事業の企画を行うにあたり、まず当交流の家の企画指導専門職による事業の企画方法についての講義を受け、ねらいの立て方やプログラムの選定方法等を学んだ。その上で、事業に参加した子供たちがどのような姿になってほしいのかイメージをもたせ、実現のために必要なプログラムについて検討した。協議の結果、豊かな人間関係を築くために必要なコミュニケーション能力を高めることをねらいとし、野外炊飯や自然オリエンテーリング、木工クラフトなど「協働的な活動」を取り入れた事業を10月26日(日)に開催することを決定した。

(2)ボランティア自主企画 実地踏査(自主企画担当ボランティア:大学生2名、短期大学生1名)

当日行うプログラムについて、活動場所や使用する物品の確認、活動のシミュレーションを行った。自然オリエンテーリングは安全に活動できるよう、ルールや場所の確認等を行った。野外炊飯は、実際に調理を行いながら、作成した手順書を修正するとともに、刃物や火を安全に扱うために必要な注意事項について確認した。また、木工クラフトも、実際に創作活動を行い、どの場面で子供たちにコミュニケーションの機会を設ければ効果的か検討し、活動の流れを決定した。



(3)ボランティア自主企画 当日(自主企画担当ボランティア:高校生2名、短期大学生1名、大学生3名) (当日ボランティア:大学生3名、高校生3名)

(自主企画事業に参加した子供たち:小学校4年生11名、小学校5年生10名、小学校6年生3名)

合計12名のボランティアが前日準備、当日の運営を行った。前日から雨が降り、雨天プログラムの実施を決定し、使用物品の準備と、活動場所の再調整を行った。野外炊飯に時間がかかってしまい木工クラフトの活動内容を見直すことで対応した。予定通りの活動はできなかったが、ボランティア同士で意見を出し合って臨機応変に対応したことで、子供たちの満足度も非常に高かった。



6 成果と課題

(1)成果

先輩ボランティアが中心となり、後輩ボランティアへ子供たちへの具体的な声のかけ方や接し方について助言を行っていた。参加したボランティアからは「子供たちを信じて見守ることの重要性に気付いた」「一人一人の個性に応じた接し方を学び、子供たちへの関わり方の幅が広がった」など、参加した全てのボランティアが自身の成長を実感することができた。

(2)課題

事業当日が雨天であったり、野外炊飯の活動に想定以上に時間がかかったりして計画通りに進まない部分が多かった。天候や子供たちの活動の様子などについて、自主企画担当ボランティアと職員で様々なケースを想定し、対応策をさらに丁寧に検討しておく必要がある。

1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知らせ、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

2 期日

令和7年8月5日（火）～7日（木）

3 会場

福島県環境創造センター交流棟 コミュタン福島（福島県田村郡三春町深作 10-2）
いわき市漁業協同組合（福島県いわき市中央台飯野 4-3-1）・沼の内漁港（福島県いわき市平沼ノ内浜街）
宇川ブルーベリー園（福島県耶麻郡猪苗代町三ツ和五十軒 3358）
国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

38名（小学生27名、中学生11名）

5 主な活動内容

(1) オープニング、コミュタン福島での東日本大震災を考える活動

オープニングでの未来塾紹介動画視聴や、担当による説明により、今後の活動の見通しをもつことができた。コミュタン福島の見学や放射線測定実験では、東日本大震災や原発事故の被害について詳しく学ぶことができた。参加者からは「森林の除染がもっと進めばいいのにどうして行わないのだろう。」「震災や原子力発電についてもっと知りたいと思った。」等の声が聞かれた。



(2) 福島県の水産業や農業について考える活動

経済産業省資源エネルギー庁の職員を講師に招いて、ALPS 処理水の放出や安全性について学び、それをどのように世の中に発信していくか等について考えた。またホッキ貝の殻むき体験や、魚の重さを当てる入札体験等を行った。「ALPS 処理水の安全性や福島のおいしさをもっと伝えたい。」「いわき市には美味しい海の幸がたくさんあることが分かった。」等の声が聞かれた。



(3) 能楽体験を通して伝統文化を学ぶ活動

会津能楽会の方から能楽の歴史について学び、実際に道具（楽器）に触れて演奏をしたり、面をつけたりする体験を行った。能管（笛）の高い音を聞き、『蜘蛛の巣』という特殊な道具を見せてもらうことを通して「迫力のある演技に驚いた。」「これからの日本や地域の文化を大切にしたい」等の声が聞かれた。



6 成果と課題

(1) 成果

「東日本大震災の大きな揺れと津波、原子力災害を学んだ私たちがその記録を未来へつないで、今ある課題を乗り越え、持続可能な美しい世界を作り出していきたい。」「過去のことだけでなく、未来のことについて学べた。」などの感想から、参加者が震災の被害について知るだけでなく、復興に向けての歩みや努力、自分たちにできることについても目を向けて活動できたことが伺える。

(2) 課題

参加者の様子について把握することができたので、今後の活動においてより一層効果的な活動を展開して目的にせまれるよう、班編成やボランティアの配置などを工夫していきたい。また、体験したことや感じたことを「自分」とつなげて捉えることができるよう、活動を工夫していきたい。

1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知らせ、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

2 期日

令和7年9月6日（土）～7日（日）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

38名（小学生27名、中学生11名）

5 主な活動内容

(1) 福島のよさを考えながら「チームフラッグ作り」や「チームでの表現活動」を通してチームワークを高める活動

福島のよさ、自分の住む地域のよさを考えながら、チームに分かれてアイデアを出し合い、オリジナルのチームフラッグを作成したり、チーム名を体全体で表現したりする活動を行った。HEART Global キャストが思う福島のよさについても話を聞いた。参加者からは、「あらためて福島のよさに気づけたし、他の人の考えも分かった。」「福島県以外の人たちが福島についてどう思っているかなどを知って、もっと福島が大好き！と思った。」等の声が聞かれた。



(2) ダンスと合唱の練習を通して表現する楽しさを知る活動

苦手なことにチャレンジする気持ち、失敗を楽しむ気持ちをキャストの方から学び、ダンスや合唱に挑戦した。「ダンスが嫌だったのに、みんなに背中を押されてやってみると楽しくて驚いた。」「ダンスを楽しく踊ることで、自分って踊ることが好きなのだ気づくことができた。」等の声が聞かれ、多くの参加者が表現する楽しさを味わえたことが伺える。



(3) 練習したことを観客の前で表現する活動

2日目の最後、保護者にショーを披露した。ダンスや歌、手話を練習してひとつの形にまとめる過程で、友達を思いやる心やチャレンジする気持ちの大切さに気付く場面が多くあった。参加者からは「仲間と教え合えたから満足している。」「ショー本番のダンスはとても楽しかった。このワークショップで挑戦する楽しさを知った。」「みんなで挑戦する楽しさを味わった。達成感を感じている。」等の声が聞かれた。



6 成果と課題

(1) 成果

「仲間と気づかい合って活動することができ、失敗することが怖かったけれど頑張れた。」「この活動を通して、仲間との協力や思いやり友情が大切だと感じた。」「前よりも積極的に声をかけてみたら、仲良しの人が増え、一人じゃないのだと安心して活動ができた。」等の感想から、仲間と協力して物事に挑戦することで、自分自身の新たな可能性に気付いたり、互いに思いやり合うことの価値を感じたりすることができた参加者が多かったことが伺える。

(2) 課題

活動に対する参加者の苦手意識、不安にしっかりと向き合い、スタッフやボランティアで情報を共有することで、参加者同士がよりよい関わりをもてるよう支援していきたい。

1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知らせ、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

2 期日

令和7年9月27日（土）～28日（日）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

ユラックス熱海（福島県郡山市熱海町熱海 2丁目 148-2）

磐梯熱海アイスアリーナ（福島県郡山市熱海町玉川反田 1-1）

4 参加者

36名（小学生26名、中学生10名）

5 主な活動内容

(1) UNITED SPORTS FOUNDATIONの4つのクリニック（種目）を通して新しいことにチャレンジする

- ① 「バドミントン」では、世界で活躍する桃田 賢斗選手、福島県バドミントン協会や福島県立ふたば未来学園の方々から基礎やコツを教わった。「憧れの桃田選手に応援してもらえた。」「今後バドミントン部に入りたい。」等の声から、夢や将来を考える機会となったことが伺える。
- ② 「車いすバスケットボール」では、TOKYOパラリンピック2020銀メダリストの豊島 英選手を講師にTEAM EARTHの方々と活動した。車椅子の操作が難しく、試行錯誤しながら活動する様子が見られた。「初めてだったが楽しくできた。」「興味を持つことができた。」等の声が聞かれた。
- ③ 「アイスホッケー」では、U18女子日本代表監督の笠原 裕二郎選手をはじめ、アイスホッケーの世界で活躍する方々と活動した。何度も転んでは立ち上がり、活動終盤ではゴールを決める粘り強い姿が見られ、「最初は滑るのが難しかったけれど、アドバイスをもらいコツを掴むうちに滑ることができた。」等、達成感を感じられる声が聞かれた。
- ④ 「アルティメット」では福島県フライングディスク協会の方からアルティメットの基礎を教わった。「初めて聞いたスポーツだったが、とても楽しかった。」「練習するうちに上達して嬉しかった。」等の声から、初めての種目にも積極的に挑戦しようとしていたことが伺える。

(2) 「ユニフォーム作り」「チア作り」「スポーツ大会」を通してチームワークを高める活動

チームごとに協力してユニフォームとチア（応援歌）作りを行った。スポーツ大会ではバスケットボールとリレーを行い、自分たちのチームのチアを、自信をもって歌ったり、時には他のチームを応援したりと、チームワークを発揮して活動に取り組む姿が見られた。

6 成果と課題

(1) 成果

「新しいことにチャレンジする大切さを知った。」「スポーツをすることは、もともと好きだったが、今後は新しいスポーツにも挑戦したい。」等の感想から、「新しいことにチャレンジできる」という今回のテーマを達成できたことが伺える。また、「福島県出身の人が日本や世界で活躍していてすごいと思った。」「大きくなったらスポーツ選手になりたい。」等の感想から、将来に希望をもつことのできる体験になったのではないかと考える。

(2) 課題

実施後のアンケートから、「福島の良いところ」を意識しづらかったことが伺える。福島県に所縁のある選手が活躍していることや自分に向けたスポーツで活躍できる機会があることをより強調して伝えることで、福島の良いところを考えるきっかけになったのではないかと考える。



1 趣旨

体験活動を通して、東日本大震災から復興している福島県の現状を知らせ、福島県の未来を考え、行動できる青少年を育成することを目的に実施する。

2 期日

令和7年10月11日（土）～13日（月）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）
杉妻会館（福島県福島市杉妻町 3-45）

4 参加者

39名（小学生28名、中学生11名）

5 主な活動内容

(1) OB・OGと共に国際交流プログラムに取り組み、親睦を深める活動

初めて出会うOB・OGとイングリッシュオリエンテーリング～未来塾Version～と、イングリッシュ de ニュースポーツ（モルック）を行った。OB・OGは11歳～20歳と年齢の差も大きく、英語学習の経験差もあったが、塾生と混合班で活動することで、自然と教え合ったり助け合ったりする姿を見ることができた。塾生からは「苦手意識を感じていたが、よく聞いて理解しようとしてみると、分かることも多いと気づいた。」「英語が通じると分かって嬉しかった。」「初めて会うOB・OGの人に緊張したけれど、驚くほどすぐに打ち解けられた。」等の声が聞かれた。



(2) OB・OGと共に野外炊飯に取り組み、協力の大切さを知る活動

OB・OGと共に野外炊飯（チキンカレー、スモア）に取り組んだ。多くの塾生、OB・OGが初めての野外炊飯活動であったが、役割分担を相談したり、協力して活動したりする姿が見られた。「かまど係で、火力をアドバイスしてもらったり、目が痛くて大変な時に代わってくれたりしてうれしかった。」「自然とみんなで協力して活動することができて、今までで一番おいしいカレーができた。」等の声が聞かれた。



(3) 未来塾を通して学び、考えたことを報告する活動

最終日には、これまでの活動を通して学び、考えたことを、各自が「希」「仲」「学」「輝」など漢字一文字で表現して報告発表を行った。全4回の活動を通してたくさんの体験をしてきたが、「未来塾で学んだことをそのままにするのではなく、人に伝えることが大切だと思った。」「友達と協力して福島の沼や湖をきれいにし、多くの人に喜んでほしい。」などの活動報告から、体験活動の一つひとつが塾生の心に響き、未来塾のねらいである「福島県の未来を考え、行動できる」に近づくことができたことが伺えた。



6 成果と課題

(1)成果

「未来塾で学んだ全てのことを誇りに思って、福島のために自分から何かにチャレンジしたい。」「みんなの大切な福島を支える、守る人物になりたいという将来の夢ができた。」等の感想から、自分の夢や希望を広げ、福島県の未来を考え、自分にできることを考えるきっかけをつかむことができたことが伺える。また、一人ではできないことも仲間と協力することで成し遂げられること、何事にも挑戦する勇気をもつことの大切さを、実感をもって理解することができた塾生が多く見られた。

(2)課題

「福島のことをもっと知りたい!」と思えるようなしなやかな更には散りばめておくことで、未来塾の活動終了後も、それぞれが探究的な姿勢で学びに向き合えるのではないかと感じた。

5 福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会事業

○事業目的

「体験の風をおこそう」運動の普及啓発のために、福島県内の多くの子どもたちに体験活動の楽しさを提供するとともに、保護者に体験活動の必要性や重要性を発信する。

(1) スマイルばんせい（詳細は P.11 参照）

(2) 地域イベントや他施設での「体験の風をおこそう」運動普及啓発活動

① 事業目的

「体験の風をおこそう」運動の普及啓発のために、地域のイベントにおいて出展を行い、体験活動の重要性について広く発信をしていく。

② 期日 イベント名【場所・人数】

- ・令和7年7月20日（土）～21日（日）
学びいな夏祭り【猪苗代町運動公園 213人】
- ・令和7年7月26日（土）～27日（日）
磐梯まつり 【猪苗代町運動公園 256人】
- ・令和8年1月13日（月）
猪苗代町十三日市【猪苗代町中央商店街 37人】



磐梯まつり（R7.7.26～27）

③ 成果

地域の各種イベントにおいて、体験の普及啓発活動を実施した。子どもたちや保護者、地域の方々に体験の機会を提供したことにより、あらためて体験活動の楽しさや重要性を実感していただくとともに、地域力向上の推進に努めることができた。

(3) 子どもゆめ基金説明会

① 事業目的

より多くの方々や青少年団体などに、子どもゆめ基金の趣旨を理解していただくとともに、申請の流れや申請書の書き方などの実務について知識を深めていただく。

- ② 期日：令和7年10月25日（土） ほっとあたま 4団体5名
令和8年 1月24日（土） オンライン 3団体4名

(4) その他（紺碧の猪苗代湖復活プロジェクト会議との連携）

① 猪苗代湖クリーンアクションへの協力【計2回】

- ・令和7年 6月28日（土）
- ・令和7年10月28日（火）

② 「猪苗代湖の自然を守る会」研修会の参加

- ・令和7年10月6日（月） 猪苗代湖水中調査船

IV 令和7年度 研修支援等

1 総利用者数（令和8年2月11日現在）

宿泊利用団体数	308 団体	宿泊総利用者数	44,662 人
日帰り利用団体数	149 団体	日帰り総利用者数	4,688 人
合 計	457 団体	合 計	49,350 人

2 月別利用者数（令和8年2月11日現在）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
宿 泊	2,387	3,474	4,691	6,274	7,220	4,243	3,526	491	0	4,890	5,883	1,583
日帰り	502	951	799	528	406	248	775	119	27	305	5	23
合 計	2,889	4,425	5,490	6,802	7,626	4,491	4,301	610	27	5,195	5,888	1,606

3 宿泊団体種別利用状況（令和8年2月11日現在）

種別	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	大学等	特別支援 学校	青少年 団体等	官公庁・ 企業等	その他
割合	1.6%	23.9%	30.3%	4.2%	3.1%	0.1%	35.1%	1.5%	0.3%

4 都道府県別利用状況（令和8年2月11日現在）

種別	福島県	東京都	埼玉県	茨城県	千葉県	新潟県	宮城県	その他
割合	29.4%	20.8%	18.5%	14.1%	6.6%	4.4%	2.3%	3.9%

V 施設概要

1 職員組織

○所長	佐藤素子
○次長	室井美穂
○企画指導専門職	
主任企画指導専門職	坂本さやか
企画指導専門職	上野聡
企画指導専門職付係員	狩谷順子
○事業推進係	
企画指導専門職兼事業推進係長	大島貴浩
事業推進係員	新延あずみ
事業推進係員	熊倉美幸
○総務係	
那須甲子主幹兼総務係長	
兼磐梯係長	石黒奈々
総務係員	横山太樹
○管理係	
主幹兼管理係長	石神晋哉
主幹兼施設整備専門職	穴澤弘輝
施設整備専門職付主任	飯野智
管理係主任	丸岡奏
技術補佐員	土屋喜美男
技能補佐員	棚木一雄
労務作業員	野澤優子

(令和8年3月17日現在)

2 国立磐梯青少年交流の家のあゆみ

昭和 39. 12. 18	国立第 3 番目の青年の家設置場所を福島県耶麻郡猪苗代町に決定
41. 1. 7	第 1 期工事【本館・講堂棟・宿泊棟西側】竣工(宿泊定員 200 名)
41. 4. 4	所歌「若人の道」制定
5. 22	開所式挙行
42. 3. 30	第 2 期工事【体育館、宿泊棟東側】竣工(宿泊定員 400 名、体育館完成)
12. 10	キャンプ管理棟、総合グラウンド竣工
43. 8. 2	皇太子殿下同妃殿下御来所
44. 3. 20	第 3 期工事竣工(キャンプ場)
45. 5. 19	天皇皇后両陛下御来所、坂田文部大臣来所
8. 2	弓道場竣工
46. 3. 22	武道館竣工
5. 22	開所 5 周年記念式典挙行
47. 5. 22	門標完成
7. 27	三笠宮寛仁親王殿下御来所
51. 5. 22	開所 10 周年記念式典挙行
52. 9. 7	延宿泊利用者 100 万人突破記念式挙行
53. 3. 28	談話・喫茶コーナー設置
54. 3. 31	野外研修センター竣工
56. 5. 31	開所 15 周年記念事業(施設の一般開放)実施
57. 5. 30	猪苗代フェスティバル実施(以後平成 19 年まで毎年実施)
58. 4. 6	野口英世博士記念コーナー設置
61. 6. 7	開所 20 周年記念式典挙行
平成元. 8. 3	延宿泊利用者 200 万人達成記念式挙行
5. 12. 17	キャンプ場整備完了
7. 3. 20	食堂棟新営工事竣工
8. 9. 6 ～ 8	開所 30 周年記念事業挙行 (磐梯博覧会 '96～学術・文化、スポーツの祭典～)実施
10. 18	開所 30 周年記念式典挙行
9. 3. 14	野外炊飯棟新営、武道館全面改修工事竣工
11. 1. 22	休憩所、野外ステージ竣工
12. 3. 31	環境教育体験館・浴室工事完了
13. 3. 31	バリアフリー化工事(エレベーター、浴室)完了
13. 4. 1	独立行政法人国立青年の家本部が国立中央青年の家敷地内に設置され、それに伴い、独立行政法人 国立青年の家国立磐梯青年の家に移行
15. 12. 19	談話棟耐震改修工事完了
17. 1. 7	宿泊棟(西側)耐震改修工事完了
17. 12. 28	食堂厨房ドライシステム化工事完了

18. 4. 1	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター、独立行政法人国立青年の家、独立行政法人国立少年自然の家が統合して独立行政法人国立青少年教育振興機構が発足し、それに伴い、独立行政法人国立青少年教育振興機構国立磐梯青少年交流の家に移行
18. 5.22	開所 40 周年
19. 1.10	宿泊棟(東側)・講師棟耐震改修工事完了
20. 4. 1	課制(事業推進課、事業支援課)より次長制へ移行
22. 3.19	講堂棟耐震改修工事完了
22. 3.30	本館耐震改修工事完了
23. 1.31	屋外給排水管他改修工事完了
23. 3.13 ～ 8.31	福島県災害対策本部の要請により東日本大震災の避難指定施設として避難者受入れ(最大 403 名/日、延べ 22,626 名)
24.11.29	災害復旧工事完了
28. 3.30	体育館 LED 照明取り換え工事完了 食堂棟天井落下防止対策工事完了
28. 5. 8	開所 50 周年記念式典・祝賀会举行
28. 7.28	屋外ステージ ボルダリングホールド設置工事完了
28.10.31	自然観察室床改修工事完了
28.11. 7	こどもの森 ツリーデッキ設置工事完了
28. 1.17	こどもの森 東屋設置工事完了
29. 1.27	食堂棟テラス改修工事完了
29. 3.14	武道館 LED 照明取り換え工事完了
29.11.13	食堂棟屋根修繕完了
29.12. 4	講堂棟シャッター修繕完了
30. 3.20	防火設備改修工事完了
30. 6.26	環境教育体験館 天体観測ドーム他改修工事完了
30.11.30	本館・宿泊棟・体育館・環境教育体験館 エレベータ改修工事完了
令和元. 6. 3	オストメイト及びベビーシート新設工事完了
元. 6.20	多言語案内看板設置新設工事完了
元. 7.31	本館照明・第 3 営火場コンセント・野球場コンセント新設工事完了
元. 8. 9	食堂棟ベランダスロープ工事完了
元. 8.31	天体プロジェクションシステム新設工事完了
2. 2.14	第 5・6 研修室エアコン設置工事完了
3. 8.18	国土強靱化計画の一環により地域防災保管拠点施設として、令和 2 年度補正予算でライフラインの強靱化改修工事(ライフライン改修工事、受水槽設置工事、宿舍棟エアコン設置及び宿舍棟等トイレ洋式化工事完了、講堂棟ボイラー更新工事完了、非常用発電機更新工事完了、電気設備改修工事)開始
3.12. 3	受水槽設置工事完了(令和 4 年 11 月運用開始)
4. 1.20	ライフライン改修(宿舍棟屋上防水改修)工事完了
4. 1.20	宿舍棟エアコン設置及び宿舍棟等トイレ洋式化工事完了
4. 1.31	講堂棟ボイラー更新工事完了
4. 2.25	非常用発電機更新工事完了

4. 3. 4	電気設備改修工事完了
4. 3. 4	国土強靱化計画の一環による地域防災保管拠点施設としてのライフライン強靱化改修工事完了
4. 3. 18	自動ドア防護柵設置工事完了
6. 6. 12	講師室エアコン設置工事完了
7. 6. 30	講師棟シャワー室自然冷媒ヒートポンプ給湯器設置工事完了

